

# とむろいし 戸室石だより

土塀の石垣のように、みんなで、暖かい病院を！

発行：金沢医療センター編集委員会

## 「病院祭報告」

統括診療部長 池田 清延



当院最初の病院祭が10/3（土曜日）、午前10時より午後3時まで開催されました。思い起こせば院長のご提案を受け、5/11の第1回の病院祭運営委員会以後、皆さんのアイデアと協力のもとに幾度となく内容が検討されてきました。たくさんのアイデアを頂き、「地域に開かれた病院をめざして」、「育もう、明日の若い医療従事者を」の2つのサブテーマを決め、多くの催し物を計画しました。メタボ検診を狙った健康チェック、各診療科からのポスターやビデオ展示、看護学校やコメディカルの展示ブース、お昼休みを利用したのロビーコンサート、中でも珍しい試みとしては模擬診療体験（実際の治療器具の操作、手術疑似体験）、妊婦や老人模擬体験、アロマセラピー体験などが行われました。当院のロゴ入りのボールペンやエコバッグなどを用意して、参加して頂いた方々に配布するサービスも行いました。

当日は好天にめぐまれ、来場者数は200名以上（主催者発表）でアンケート回収人数は127名でした。高い評価をいただいたのは、健康チェック（メタボ検診）、手術疑似体験、ロビーコンサートでした。しかし、「育もう、明日の若い医療従事者を」のスローガンのもと、高校生を対象としたコメディカルブースへの来訪者は少なく、対象を石川県全体に欲張り過ぎたため事前の宣伝・広報不足による結果と判断しました。来年はもう少し近隣の患者さんやご家族、中学生も含めた取り組みで、より地域に根ざしたものとしようと考えています。そんななかでも最もうれしく最も大きな成果は、当日、116名の職員が揃いのジャンパーを羽織って一丸となって参加していただき、当院の団結力が確認できたことです。来年はより多くのスタッフの参加と英知を凝集した斬新なアイデアをいただき、バージョンアップした第2回病院祭を行おうと、今から皆さんにお願いする次第です。最後に、可愛らしい「ちけん（治験）くん」の着ぐるみは子供たちに人気があり、病院祭りを大いに盛り上げていただきました。中に入ってご活躍されたスタッフに甚大なるお礼を申し上げ、参加して頂いた皆さんに重ねて深く感謝いたします。本当にご苦労さまでした。



ちけん（治験）くんです。



手術顕微鏡。見えるかな？



高齢者体験中。想像以上に大変です。



手術着に変身。未来の外科医誕生！



心肺蘇生法実習中。イチニサンシ。

内視鏡消化管ファイバー操作中。



# 絵葉書に見る 金沢衛戍病院 山代分院

金沢大学理工学域 非常勤講師 安達 實

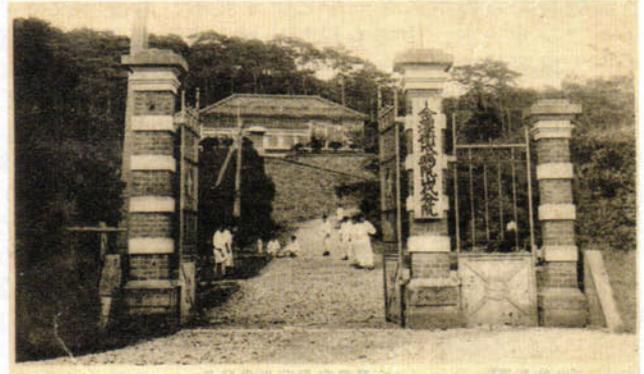
明治後期になると、患者が増えたことと療養生活を快適に過ごす施設が必要になり、金沢衛戍（えいじゅ）病院の分院が現加賀市の山代温泉に明治45（1912）年も設けられました。病院前には平地が広がり、背面は丘陵で、土地高燥周囲閑寂、眺望も素晴らしく、患者の療養には最適のところでした。

この分院は第9師団軍医部所管の衛戍病院でしたが、衛戍病院転地療養規則により、名古屋・岐阜・高田・松本・敦賀などの各衛戍病院より転送の傷病兵は少なくなかったようです。最初は金沢衛戍病院山代分院でしたが、昭和になって陸軍療養所になりました。

分院の建物の詳細は不明ですが、将校病室、下士兵卒病室、管理事務室、食堂、浴室などは素晴らしい建物であり、現在残っておればいずれも文化財になる施設でありました。



1. 「山代温泉鳥瞰図絵」にある陸軍療養所「大のや」の制作した図絵。



2. 金沢衛戍病院山代分院 正面



3. 分院 全景



4. 分院（陸軍療養所）病棟側面  
屋根に木製の雪止めがある。



5. 分院（陸軍療養所） 病棟全景



6. 分院内 診断室



7. 分院内 理学療法室



8. 分院内 浴室 素晴らしい建物



9. 分院内 下士以下の病室



10. 分院内娯楽室 手廻しの蓄音機がある。

戦時中分院に傷病兵を收容しきれず、山代温泉の各旅館にも預けられました。  
吉田屋では、30～40人を預かったようです。  
戦後、分院の施設は国家公務員共済組合の山代荘になり、建物はすっかり変わりました

## 鳥越俊太郎氏をお迎えしての市民公開講座開催

がん診療部第2部長 桐山 正人

本年8月29日、ジャーナリスト鳥越俊太郎氏をお迎えして、市民公開講座“がん患者大集合～がん撲滅に向けて～”が開催されました。これは11月8日に東京・国立がんセンターを主会場に全国20の医療機関で開催された「第5回がん患者大集合」のイベントとして、当地金沢で開催された市民公開講座で、北陸がんプロフェッショナル養成プログラム、石川県がん診療連携協議会、NPO法人がん患者団体支援機構、金沢大学がん研究所の共催で行われたものです。

皆さんもご存知のように、現在日本人の死因の第1位は悪性腫瘍（がん）によるもので年間32万人に達し、また日本人の3人に1人が癌に罹患すると言われていています。国も“がん治療”の必要性を痛感し本腰を入れて対策を講じ始めました。しかし、がん医療のプロの不足やがん医療機関の少なさ、がん情報の少なさ、連携の疎などが指摘され、がんプロフェッショナル養成プログラム（通称がんプロ）や、がん診療連携協議会が創られ、また治療を受ける患者の立場から医療の充実を目的にがん患者団体支援機構が生まれました。“より良いがん治療をどこでも受けられるように”との思いから、今回これらの団体の共催でこの会の開催が決まりました。私もがんプロのメンバーとして、パネルディスカッション「どこでも最良のがん医療を受けるために」のパネリストとして参加させて頂きました。

堅苦しい話はさて置き、鳥越さんの人柄や裏話をしましょう。鳥越さんの講演をお聞きになった方はもちろん、テレビで拝見された方も感じられるように、とても前向きで、決して威張らず、親しみやすい方です。お世辞ではありません。講演の前に軽い昼食を摂りながら1時間ほど雑談をしたのですが、人柄の良さとともに前向きに生き続ける芯の強さを感じました。講演の中でも、4回の手術（直腸癌、肺転移、肺転移疑い、肝転移）を受けながら物事を悪く受け取らず、前向きに生きていく姿勢をお話になったと思います。また病気のこと、治療のこと（手術から抗がん剤の効果・副作用まで）をよく知っておられました。ご本人は“先生方はがんプロですが、私はがん患者プロですから”と笑いながら、それぐらいは知ってますよと話しておられました。

実はこの日は最後のパネルディスカッションのパネラーとして、私と一緒に参加する予定でした。当初は鳥越さんと私、そして「萌の会」の和田さんの三人がパネリストで、打ち合わせなしで当日行き当たりばったりでディスカッションして下さい、との依頼でした。題は「どこでも最良のがん医療を受けるために」と決まりましたが、私へのテーマが無いために鳥越さんとどう対話すればよいかかなりプレッシャーでした。ところが二日前の夕方に、当院の百万石メディネットについて少し話してほしい、と突如大学からメールが届き、連携室の協力を得て翌日1日で準備をするというドタバタ劇がありました。実はこれは市民公開講座の翌日が例の総選挙で（自民・民主の政権交代）、鳥越さんはジャーナリストとしてこれを見落とすわけにはいかないと、当日東京へとんぼ返りされパネルディスカッションには不参加となりました。それで私と和田さんが少し話をし、さらに前のセッションで講演をした4人のメンバーが加わってくれて、パネルディスカッションを無事に終えたわけです。私としては鳥越俊太郎と肩を並べて対話すると言うプレッシャーはなくなりましたが、前日のドタバタには疲れました。

しかし幸い超満員の市民の方々に集まって頂き、公開講座が大成功のうちに終了したことは大変喜ばしいことでした。ちなみに当日の入場整理券は先着順でしたが、100人を超す方が整理券を手に入れることが出来なかったようです。鳥越俊太郎の人気はスゴカッタ！



がんプロメンバーと鳥越氏



筆者：桐山



鳥越 俊太郎氏

## 新型インフルエンザ・パンデミックと ワクチンについて考える

感染管理室長 太田 和秀



新型インフルエンザの世界的大流行（パンデミック）の波がいよいよ日本にも押し寄せてきました。人類の歴史から見ても、インフルエンザ・パンデミックは避けて通れないイベントともいえます。石川県下では11月下旬から12月上旬にかけてピークに達しようとしています。感染拡大の基となっている患者の多くは子供達です。どうも、成人は子供達に比べて罹患しにくいようです。今

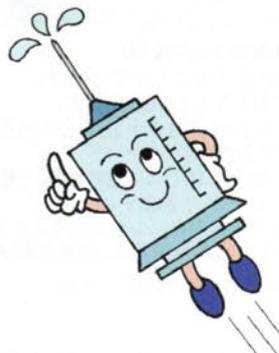
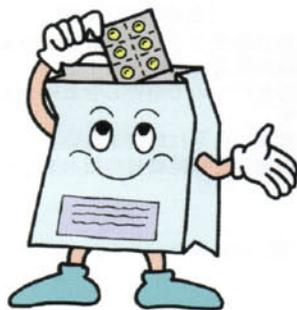
回のインフルエンザウイルスに対する抗体を持っている人は80歳以上の高齢者のみで多くの成人は未罹患で抗体を持っていないはずでした。にもかかわらず成人がかかりにくいのは、過去の季節性インフルエンザ感染によって類似の新型にも「交差免疫」が働くのではないかと推測されています。この点に関しては、今後さらに明らかになってゆくものと思われま

す。季節性インフルエンザの感染・増殖の主体が上気道であったのに対して、新型インフルエンザは、とにかく肺炎などの下気道感染が多い事が臨床的な特徴でした。特に気管支喘息などを持ったアトピー体質のお子さんが重症化しやすい傾向にもありました。新型インフルエンザウイルスは、II型肺胞上皮細胞に感染しそこで増殖するのが特徴で、あっという間に重症肺炎に移行しやすいようです。当院でも、入院したインフルエンザ患者さんの多くは、インフルエンザ肺炎でした。また、その進行は早く発症数時間で呼吸不全に陥り人工呼吸管理となった症例を当院でも経験しました。この患児は、2日後には抜管できており、増悪するの

も早いですが適切な治療を行えば治りも早いのが特徴かと思ひます。今回のパンデミックにワクチン接種が間に合わなかった事もここまで感染拡大させてしまった理由の一つかと言えます。日本のワクチンを含めた予防医学に対する国家戦略の甘さをいっきに露呈してしまった感を免れません。先進国でありながら、ワクチン対策に関しては世界のブービー賞（最下位は、ご想像にお任せします）と言われている日本のあまりにも貧困なワクチン政策に対して、あまり疑問視しない日本国民にも大きな責任があるものと思ひています。数人の方がインフルエンザで亡くなると新聞で大きく報道され恐怖におののきパニックに陥る。しかし、外国では麻疹、ロタウイルスなどで毎年数十万人の子供たちが亡くなっているのに、その事実を知ろうとしないし、知っても関心を示さない。小児科診療や感染症に携わる医師としてはちょっと悲しい気持ちになります。



なお、今回の新型インフルエンザ・パンデミック騒動で、職員の皆様が一致団結して診療やワクチン接種に協力していただき本当に感謝しております。これを契機に、この金沢医療センターがますます世間の方々から厚く信頼される“素敵”な病院へと発展していくものと私なりに確信が持てました。有り難うございました。これからも感染管理室をよろしくお願ひ致します。





## 「治験(ちけん)」ってな～に？(治験管理室)



「治験(ちけん)」という耳慣れない言葉をご存知でしょうか。新しい「くすり」が世の中で使われるようになるには、動物実験で主な効果や副作用を調べた後に、ヒトでの有効性や安全性を調べる必要があります。このヒトで行う試験を「治験」と呼んでいます。国(厚生労働省)から「くすり」として認めてもらうには「治験」を行わなければなりません。

現在、世の中で使われているほとんどの「くすり」はこのような「治験」を経て世の中に出てきたもので、多くの患者さんのご協力によって生まれたものなのです。同じ病気で悩まれている人々により良い「くすり」を提供するためにも、「治験」に参加していただける患者さんのご協力が必要となります。

金沢医療センターでは、治験について積極的に取り組んでいます。治験に関して知りたいこと、疑問に思われることなどありましたら、病院1階の南東病棟へ向かう廊下の途中にある治験管理室までお気軽にお問い合わせください。



当院病院祭でも大活躍の治験PRマスコットの「ちけんくん」です

連絡先は下記のとおりです。

電話:076-203-4520(直通)

FAX:076-262-4191

メール:chiken55@kinbyou.hosp.go.jp

ホームページ:<http://www.kanazawa-hosp.jp/service/chiken/index.html>



治験管理室入口です。治験に関して知りたいこと、疑問に思われることなどありましたらお気軽にお問い合わせください。

### ～～～金沢医療センターの理念及び基本方針～～～

#### 【理 念】

私たちは、生命の尊さと人権を尊重し、安全で最良の医療をめざします。

#### 【基本方針】

- 一、説明と同意に基づく信頼される医療を提供します。
- 一、臨床研究を行い、医学の進歩に貢献します。
- 一、病診連携を推進して、地域医療に貢献します。
- 一、医療提供基盤の安定に努め、医療環境の向上を図ります。

### 患者の権利・義務

#### 【患者さんの権利】

- 1. 人格を尊重した医療を受けることができます。
- 1. 良質な医療を公平に受けることができます。
- 1. 病状、治療法、見通しなどの説明を十分に受け納得の上で、治療方法を選ぶことができます。
- 1. 病状、治療法、見通しなどに関して、他の医師の意見(セカンドオピニオン)を聴くことができます。
- 1. 自分の診療録(カルテ)の記載内容について知ることができます。
- 1. 病状や診療内容に関する個人の情報は、厳密に保護されます。

#### 【患者さんの義務】

- 1. ご自身の健康状態をできるだけ詳細かつ正確に、医師をはじめとする医療提供者にお知らせ下さい。
- 1. 検査や治療方針について納得し合意のうえ、意欲を持って取り組んで下さい。
- 1. 快適な療養環境づくりに協力下さい。
- 1. 病院内の規則遵守と病院職員の指示を守ってください。

# 担当医一覧表

平成21年 12月

診療科目	診療時間	【初診受付時間】 午前8時30分～11時30分					備考
		月	火	水	木	金	
内科	初診	吉村	吉尾/北	周藤	長岡	伊勢	火曜日:初診は隔週交代です 木曜日:初診(消化器)は隔週交代です 糖尿病教室:第1～第4月曜日(14:00～15:00) 高血圧教室:第2水曜日(15:30～16:30) 禁煙外来:12月毎週火曜日(14:00～15:00)要予約
	初診(消化器)	太田(肇)	堀井	小村	関/原	丸川	
	内分泌・代謝①	能登	長岡	能登	栗田	長岡	
	内分泌・代謝②		(能登)	栗田			
	腎・膠原病	伊勢	伊勢	相良	吉村	吉村	
	透析	相良/林(美)	吉村/林(美)	伊勢	相良/林(美)	相良	
	血液	吉尾			周藤	吉尾	
	呼吸器	北	廣瀬	北	織部	廣瀬	
消化器①	森本	太田(肇)	森本	太田(肇)	原		
消化器②	小村	関	丸川	丸川	堀井		
精神科		坂井	小室	杉盛	小室	坂井	
神経内科		新田	坂尻	新田	坂尻	新田	火:物忘れ外来(午前・要予約) 水:頭痛外来(午前) 金:ふるえ外来(午前)
循環器科	一診	佐伯	中村	加藤	中村	中村	初診(毎日)
	二診	小見	阪上	阪上	阪上	小見	
	三診	加藤	佐伯	池田	佐伯	池田	
小児科	一診	太田(和)	酒詰	太田(和)	酒詰	太田(和)	予防接種:火・木曜日の14:30～15:30(要予約) 午後の専門外来:14:00～16:30(要予約) 健診:火・木曜日の13:30～15:00(要予約)
	二診	長沖	前馬	横山	土市	水野	
	専門外来(午前)					酒詰/循環器	
	専門外来(午後)	太田(和) 夜尿外来 水野 水野 神経	水野 アレルギー 1ヶ月健診 予防接種	太田(和) 腎臓疾患 長沖 内分泌	酒詰/脳坂 循環器/神経 乳幼児健診 予防接種	酒詰 循環器 太田(和) 膀胱造影	
外科	一診	桐山	(手術日)	桐山	(手術日)	桐山	乳腺外来(初診) 月・金曜日の8:30～10:00(受付時間)
	二診	竹川		竹川		竹川	
	三診	黒阪		黒阪			
	五診			小島(第1・第3水曜)			
	六診			初診 松村		初診 松村	
	七診	道輪				道輪	
	乳腺外来	道輪		(桐山)		竹川	
整形外科	初診	池田	納村	野村	藤巻	内藤	
	再診	野村	池田	納村	池田	藤巻	
	再診		藤巻		納村		
	再診	(手術日)	内藤	(手術日)	内藤	(手術日)	
脳神経外科	一診	池田	池田	当番医	池田	正印	月、水、金曜日:手術日 火曜日二診は、一週交代です。(10:00～) 木(14:00～)パーキンソン病外来(要予約)
	二診	赤池	正印/赤池	(手術日)	正印	赤池	
	午後予約外来				パーキンソン病外来(池田)		
呼吸器外科	一診	太田(安)	(手術日)	太田(安)	(手術日)	太田(安)	
	二診	守屋		守屋		守屋	
心臓血管外科	一診	再診のみ	遠藤	再診のみ	遠藤	再診のみ	初診(一診)は火・木曜日です。 月、水、金曜日:手術日
	二診	(手術日)	川上	(手術日)	松本	(手術日)	
	三診		松本		笠島		
皮膚科	初診/再診	稲沖	西島	稲沖	稲沖	西島	乾癬外来:木曜日(13:30～15:30)
	再診	西島	稲沖	西島	梅原	梅原	
	再診	梅原	梅原		午後専門(乾癬)外来		
泌尿器科	一診	越田	越田	越田	飯島	越田	ED外来:第2・4木曜日 14:30～ ストマー外来:第3月曜日 13:30～ 月、水、金曜日:手術日
	二診	石浦	飯島	石浦	石浦	石浦	
産婦人科	一診	瀬戸	平林	瀬戸	金谷	瀬戸	妊産婦健診:午前(月～金) 助産師外来:午前(月～金) 火、木曜日:手術日 午後:助産師乳房外来(要予約)
	二診	平林	当番医	平林	当番医	平林	
	三診	金谷	(手術日)	金谷	(手術日)	金谷	
	西			西		西	
眼科	一診	長田	長田	長田	長田	長田	火・木曜日:手術日
	二診		当番医		当番医		
耳鼻咽喉科	一診	瀧口	瀧口	瀧口	瀧口	瀧口	小児難聴:水～木曜日 月、水、金曜日:手術日
	二診	荒館	荒館	荒館	荒館	荒館	
	三診				廣瀬		
放射線科	一診	斎藤	多田		多田	斎藤	照射の依頼:毎日可
	二診	小林	小林	小林	小林	小林	
	(超音波)	俵原	多田・牧田	大久保	多田・俵原	俵原	
歯科口腔外科	初診/再診	中尾	(当番医)	能崎	(当番医)	初診のみ	火、木曜日:手術日
	再診	能崎		中尾		中尾	
	再診	小山		小山		能崎	
	再診	山崎		山崎		山崎	
麻酔科	一診	岸榎	岸榎		岸榎	岸榎	ペインクリニック、術前診察:午前中
	二診	横山	野竹			太田(敏)	

※ 特殊外来及び午後外来は、予約が必要です。なお、急患については、終日受付します。  
担当医は都合により変更となる場合がありますのでご了承願います。

## 看護学校より

第63回 立志のつどいを平成21年11月5日（木）、午前の部 立志のつどい式、午後の部 記念講演会の二部構成で開催しました。立志のつどい式は看護学校体育館にて多くの病院職員の方々が見守る中行われ、1年生は感激を胸に看護に対する誓いを立てることが出来ました。ありがとうございました。1年生は当校同窓会から送られたカーネーションのコサージュが教員の手で胸につけられ、感激もひとしおでした。1年生は79名、この日までにナイチンゲール誓詞唱和のリハーサルを行いながら、立志のつどい式の後に予定している基礎看護学実習に向けて、気持ちを徐々に高めつつ、準備をしてきました。その過程で、ナイチンゲール誓詞を自分たちの解釈でことばを考え表現しました。式中にも述べておりますので、ここに紹介いたします。キャンドルサービスの後、ステージ上に4列に整列し、各列の代表が感謝と誓いのことばを述べました。

私たち第63回生は、支えてくれている両親や指導して下さる先生方への感謝の気持ちを決して忘れず、（1列代表 山田 紗織さん）

患者さんに信頼され、わけへだてのない看護ができる、そんな看護師になるべく実習を通じて多くの経験を重ね、（2列代表 小倉 千里さん）

各々が目標と掲げる、理想の看護師像に近づくことができるように、日々努力することを怠らず、（3列代表 坂本 祥子さん）

看護の専門職業人として、生涯、学習し続けることを、ここに誓います。

（4列代表 柳澤 希佳さん）



当院は、敷地内全面禁煙を実施しています。

医療機関として、全ての方に最適な療養環境を提供するために、敷地内全面禁煙としておりますので、皆様方のご理解とご協力をお願いします。

### 編集後記

今年は新型インフルエンザ対策に追われた一年でした。また、流行語大賞となった「政権交代」もありました。政権が変わったことにより医療分野の政策にも変化があるものと思われませんが、私たちが提供している医療の内容には変化はありません。新たなウイルス・疾病による脅威やその他の変化にさらされても職員一丸となり患者さんのためになる医療を提供し続けていきます。（Y.K）

発行元：金沢医療センター（〒920-8650 石川県金沢市下石引町1番1号）

電話：076-262-4161（18時以降の救急受付：076-262-4163）、FAX：076-222-2758

ホームページ <http://www.kanazawa-hosp.jp/> Eメール [admin@kanazawa.hosp.go.jp](mailto:admin@kanazawa.hosp.go.jp)

地域医療連携室（直通番号 076-262-4187、専用FAX 076-262-4188）

編集委員：緒川陽子、沖田光郎、奥村達夫、金子祐子、菊山 譲、北川芳美、越田 潔、周藤英将、仲村恵子、中村由紀夫、西原寿代（五十音順）